



たもんのこ



令和7年9月1日
認定こども園
世田谷区立多聞幼稚園
園長 山路 智之

子どもたちの未来を想像して

園長 山路 智之

7月から毎日のように酷暑が続き、プール遊びが不可能な日が続く中、くまのみクラブを利用の子どもたちは多聞小学校のすくもりルームや図書室を利用させていただいたり、牛乳パックで紙すき葉書を作ったりするなど、普段と違った遊びを取り入れながら過ごしました。ご家庭で過ごされていた子どもたちは、どのように過ごされていましたか。先生や友達との久々の再開に喜び、思い出話に盛り上がる2学期が始まりました。

しかしながら、局地的な豪雨による災害により、全国各地において甚大な被害がありました。被害を受けられた方々が、一日も早く平穏な生活に戻れます事をお祈り申し上げます。

私のこの夏の思い出は大阪・関西万博です。歴史、伝統、文化、世界とのつながりを脈々と引き継ぐといった意味が込められ、名付けられたキャラクター“ミャクミャク”は大人気となっています。いくつかのパビリオンを回り印象に残ったものは「PASONA NATUREVERSE (パソナ ネイチャーバース)」です。iPS細胞を活用したミニ心臓や心臓病治療への期待が高まるiPS心筋シートが動く様子が観察でき、研究開発の最前線に触れることができるのは、万博ならではの貴重な体験でした。他にも空飛ぶ車や万博のシンボルの建築物である大屋根リングを目にできただけでも満足でした。

帰りがけに、EXPO'70が開催された万博記念公園内にあるパビリオンにも足を運びました。岡本太郎氏によって設計された「太陽の塔」や当時紹介されていた電動自転車や電気自動車を見ました。当時の映像やパネルを見ながら感じたことがあります。

1970年の日本は、高度経済成長の絶頂期にありました。1ドル360円、海外旅行はまだ一部の人々に限られた特別な体験でした。しかし、万博をきっかけに、国際交流への関心が高まり、海外旅行への憧れが一層強くなりました。当時の映像紹介に、子どもたちが海外からの観光客や外国人スタッフに駆け寄り、手帳を差し出しサインを求める姿が映っていました。子どもたちにとって万博が単なる展示イベントではなく、「世界との出会いの場」になっていました。

あれから50年の時を経て、時代は大きく変化しました。この先、子どもたちの未来はどのようなになっているのでしょうか？想像するだけでワクワクします。

今学期も、子どもたちが遊びを思う存分に楽しみ、様々な経験を積み重ねていかれるよう教育活動を充実していきたいと思います。

今月、各学年で大切にしたいこと

＜年少＞○一日の流れや園生活に必要なこと（所持品の始末など）を思い出しながら、安心して過ごせるようにする。

○気に入った物や場を見付け、自分なりに遊ぶことを楽しめるようにする。

○教師や友達と一緒に踊ったり走ったりして、体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。

＜年中＞○園生活のリズムを取り戻し、自分のしたい遊びを見付けたり、友達や先生との関わりを楽しめるようにする。

○友達や先生と一緒に、身体を動かして遊ぶ楽しさや気持ちよさを味わえるようにする。

＜年長＞○園生活のリズムを取り戻し、自分の思いや考えを伝えながら、遊びを進めていこうとする。

○いろいろな運動遊びにすすんで取り組み、自分の力を発揮したり、友達同士で認め合ったりする。